

2024年度学校評価（案）

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 第2期中期計画（2025年～2029年行動目標）策定 (1) 現状認識 (2) 基本認識 2 学校改革の推進 (1) 将来計画WG、「校則検討」「授業改革」「広報戦略ブランディング」「働き方改革」の4つのSWG（サブワーキンググループ）、キャリア教育推進、工業教育改革、DX推進、大同コミュニティづくりの高校策定部会を中心に、全職員の対話で進める。 図書研修部を研究センターとした「これからの学校」に関する情報収集とプランの提示。 (2) 学校の特色、魅力の明確化 (3) 収支改善の視点 3 2024年度の具体的課題 (1) 2024年4月からの新たな取組 (2) 滝春校舎と大同校舎に分かれた学校運営 (3) 工業科の実習授業運営 (4) 生徒募集の課題(工業科生徒の増加、女子生徒の増加) (5) 奨学生制度 (6) 一般入試の会場について(志願者数の増加への対応)</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価基準と方法</p>
<p>学習指導部</p>	<p>学力の向上と授業の充実 (1) ベル着の習慣化と授業改善の取り組みを土台とした授業規律の確保 (2) ICT活用の授業実践による学習理解度の向上 (3) 欠課時間数の多い生徒への早期対応と改善に向けた取り組み (4) 学力不振の生徒への早期対応と改善に向けた取り組み (5) 転退学者を出さないための早期対応と改善に向けた取り組み</p>	<p>(1) 授業改善のためのフローに沿った改善指導の促進と迅速な対応 (2) 教科ごとによるICT活用促進に向けた授業の実践と教科会議での情報共有 (3) 欠課時間数の多い生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底 (4) 学力不振の生徒に対する教科・担任・学年の連携による指導の徹底 (5) 担任・学年・教科等の連携による細やかな指導と支援体制の構築</p>	<p>次の(1)～(5)の指標で評価する。 (1) 授業態度調査(授業規律違反者数、調査回数) 【A】30名以下 【B】31～60名 【C】61名以上 (2) ICT活用の授業実践率調査(教科別の調査) 【A】60%以上 【B】59～40% 【C】39%以下 (3) 欠課時間数超過生徒数の調査(学年末で評価) 【A】5名以下 【B】6～10名 【C】11名以上 (4) 学力不振の生徒に関する調査(学年末で評価) 【A】30名以下 【B】31～60名 【C】61名以上 (5) 転退学者数に関する調査(学年末で評価) 【A】10名以下 【B】11～20名 【C】21名以上</p>
<p>情操教育部</p>	<p>(1) 学習と部活動、学校行事に集中して取り組み、活力ある学校生活が送れるよう生徒の自律を促す。 ①大同三訓の実践 ②自ら考え行動する生徒の育成</p>	<p>(1) 遅刻指数(総遅刻数/全校生徒数) 【目標】1.0以下 【昨年度】1.96 (2) 第2段階以上の特別指導者数(延べ) 【目標】30名以下 【昨年度】49名</p>	<p>次の(1)～(2)の指標で評価する。 (1) 遅刻指数(総遅刻数/全校生徒数) 【目標】1.0以下【昨年度】1.96 【昨年度比較】15%減【A】、10%減【B】、±10%未満【C】、15%増【D】 (2) 第2段階以上の特別指導者数(延べ) 【目標】30名以下【昨年度】49名 【昨年度比較】15%減【A】、10%減【B】、±10%未満【C】、15%増【D】</p>
<p>情操教育部 (健康安全)</p>	<p>(1) 環境指導 (2) 環境安全 (3) 健康管理</p>	<p>(1) 環境指導 ①校内・学校周辺環境美化のボランティア活動を行い、奉仕の精神を養う。(1年生LHR利用) ②授業後の保健美化委員による校内美化活動(手洗い場の清掃)。 授業後のボランティア委員による校内美化活動(ゴミ集積場での分別・記名確認)。 (2) 環境安全 ①防災組織・火元責任者・緊急時対応策などシステムを拡充する。 ②環境安全点検の強化。 (3) 健康管理 ①生徒の健康管理と傷病への迅速な対応を図る。 ②心身ともに健康な人間形成を目指す。</p>	<p>目標達成のための具体的方策の実施状況で評価する。 (1) ボランティア 清掃活動(チョコボラ)の実施状況 (2) 生活安全指導 避難訓練、施設整備、安全点検、安全管理の実施状況 (3) 保健指導・健康管理指導 各種検診・検査、調査統計、精神衛生相談(スクールカウンセリング)の実施状況</p>
<p>情操教育部 (生徒会)</p>	<p>(1) OECD「2030年に向けた生徒エージェンシー」に則った生徒議会・執行委員会・各種委員会活動の自立化(昨年度からの継続課題) (2) 「Do～Dai?」の活性化 (3) 生徒会役員選挙のさらなる活性化</p>	<p>(1) 昨年度と同じ目標となるが、生徒会活動の更なる自立化に向けて課題の継続を行う。生徒自身が本校の現況をみつめ、よりよい学校、よりよい学校生活、地域をはじめとする様々な人々への貢献のあり方などを考え、行動を提案し、実践していくことができるようにする。 今年度から通学バッグの自由化が実現した。自分たちで学校生活を作るという意識が実感できたはずである。これをきっかけに生徒議会、各種委員会の活動をさらに活性化させる。 (2) 昨年度から自由な対話の場「Do～Dai?」を設置した。生徒1人ひとりの「意見を表明する権利(2023年度4月施行:子ども基本法)」を保障すべく設置し、昨年度は対話を8回重ねた。特に3学期は、頭髪規定について全校一斉で考える「Do～Dai?」を実施した。今後も「Do～Dai?」から各種委員会や全校一斉での活動につなげていけるよう、最小単位ではあるが最も重要な対話の場として活動を積み重ねていく。他校からも注目されている場であるため、それに恥じぬよう取り組む。 (3) 生徒会役員選挙改革によって1人ひとりが一票の重みを感じるとともに、国政選挙に関心を持つ良い機会として、今後も取り組んでいく。まだまだ選挙に向けた広報活動等の活性化は不十分であり、候補者が自らの声をどう発信し、何を実行するか、そこに焦点を充てていく。</p>	<p>(1) 様々な学校行事での各種委員会の活動の状況から評価する。 (2) 回数を重ね、かつ、その内容を全体に共有できているか。インスタを活用し、全校、さらには学外に共有できているかで評価する。 (3) 選挙活動の具体的方策や投票率の昨年度との比較で評価する。</p>

進路指導部 (進学指導)	(1) キャリア教育と進路指導の連携 ⇒ 年間行事に様々な行事を盛り込み、キャリア教育からの進路指導を実現する。 (2) 高大連携 ⇒ 推薦規定の抜本的見直し (3) 校内推薦規定の見直し ⇒ 校内推薦規定の抜本的な見直し	(1) 進路指導が、様々な視点から考えることができるような行事を行う。 ⇒ キャリア教育の強化 ⇒ 進路設定の機会を増やす。 (2) 高大連携 ⇒ 規定を現状に合ったものにする。 (3) 校内推薦の見直し ⇒ 現状に合ったものにする。	次の(1)～(3)の視点で目標達成状況を評価する。 (1) 行事の実現と、進路実現の体現。 (2) 併設校選抜規定の見直し (3) 校内推薦規定の見直し 【A】 目標を上回った 【B】 概ね目標を達成できた 【C】 目標にやや届かなかった 【D】 目標を大きく下回った
進路指導部 (就職指導)	(1) 一次合格率の向上 (2) 大手企業の合格者数の増加 (3) 「職業観」の育成と「学校斡旋就職者」に対する事前指導 (4) 離職率の低下 (5) 学校斡旋就職率100%の継続 (年内実現) (6) インターンシップの充実 (7) オープンカンパニーの周知と参加者促進を図る。	(1) 「学校斡旋就職」に対する事前指導、学年会への情報伝達の充実を図る。 (2) 外部講師による「職業講話」、「就職説明会」を通じ、就労意識の向上を図る (3) 就職試験に対する指導 (応募書類作成、筆記、面接、グループディスカッション等)の充実を図る。	(1) 一次合格率90%以上 (大手企業合格率80%以上) 【A】 90%以上 (女子の合格率80%以上) 【B】 85%以上 【C】 80%以上 【D】 75%未満 (2) 学校斡旋就職率100%の達成 【A】 年内 【B】 1月 【C】 2月 【D】 3月 【E】 未達成 (3) インターンシップ参加 2年生在籍の1/4 【A】 20%以上 【B】 15%以上 【C】 10%以上 【D】 10%未
総務部	(1) 配信機材を活用することで式典・行事をさらに充実したものにしていく。 (2) PTA行事の新しい形態をPTA役員と連携し確立していく。	(1) 配信機材の操作に長けた教職員からの意見を反映し、協力して取り組む (2) PTA幹事会において積極的に意見交換を図る。	(1)、(2)とも 試みに対して教職員・保護者の感想から客観的に評価 【A】 目標を上回った 【B】 概ね目標を達成できた 【C】 目標にやや届かなかった 【D】 目標を大きく下回った
図書研修部	(1) 次期中期計画をもとに研究センターとしての立ち位置を確立していく。 (2) DXの活用を考察する。 (3) 生徒の図書室活用を促進する。 (4) 「これからの教育」の在り方を検討していく。	(1) 将来計画WGでの議題をもとに、図書研修部としてどのように「これからの教育」を構築していくかを議論する。 (2) 校務運営上課題となっている部分を意見として徴集し、プログラム作成を通じて改善する。 (3) 「図書室だより」を毎月発行する。 (4) 「これからの教育」に沿ったカリキュラム・授業方法・評価方法をF棟での実践を通しながら、成果報告として現職教育を実施する。	(1) ある程度の枠組みが構築できたかどうかで評価する。 (2) プログラムを作成し、業務負担が軽減されたかどうかのアンケートを実施し評価する。 (3) 図書館のシステム上で貸し出し冊数を計算し、前年度比で向上したかどうかで評価する。 (4) 1学期と2学期に実施される現職研修においてアンケートを実施し評価する。
工務部	(1) 全員受験における資格検定試験の合格率向上 (2) 社会で通用する国家試験・技能試験等の推進と継続性 (3) 新実習室における実習内容の在り方と方向性 (4) 選コースの在り方と方向性 (5) 実習機器更新における高大連携	(1) 効果の見込める学習方法の内容変更と対策プリント等の活用を目指す。 (2) 周知徹底と指導体制・環境の強化、教授側のスキルアップを目指す。また、外部講師等を通して技能伝承を図る。 (3) 教科書や社会で通用する内容に刷新を目指す。 (4) DU進学コースの希望者減により存続の有無の検討を図る。 (5) 大学施設の有効活用を検討する。	次の(1)～(5)の視点で達成度を評価する。 (1) 合格率向上 [昨年度比較] 【A】 +10% ≤ 合格率 【B】 -10% < 合格率 < 10% 【C】 -10% ≥ 合格率 (2) 国家・技能試験等の希望者数 [昨年度比較] 【A】 5名 ≤ 希望者数 (各種) 【B】 0名 < 希望者数 (各種) < 5名 【C】 0名 = 希望者数 (各種) (3) 39テーマ中実習内容の刷新 [変更数] 【A】 5テーマ ≤ 変更数 【B】 3テーマ ≤ 変更数 < 5テーマ 【C】 0テーマ ≤ 変更数 < 3テーマ (4) 存続の方向性と進学希望者への対策案の具現化の提示 [進捗度] 【A】 30% ≤ 進捗度 【B】 10% ≤ 進捗度 < 30% 【C】 0% ≤ 進捗度 < 10% (5) 現実に活用の有無 次年度課題：上記内容の更なる向上を目指す。
情報部	(1) 今年度情報機器の定期更新が滞りなく実施できたか。 (2) 来年度情報機器の定期更新が滞りなく立案できたか。	(1) 意見の収集、更新情報の公開を行い、情報を共有する。 (2) 意見の収集、更新情報の公開を行い、情報を共有する。	次の(1)、(2)の視点で評価する。 (1) 補助金を活用して年度内に更新が完了できたかどうか。 (2) より良い教育活動を目指せる情報機器更新を立案できたかどうか。

<p>広報部</p>	<p>(1) 一定の合格基準を堅持し、学則定員 480 名の入学者の確保。 (459→475→517→456→479) (2) 推薦入試で 420 名の確保。 (388→422→413→377→384) (3) 一般入試志願者 1,500 名の確保。 (1,545→1,438→1,579→1,698→1,794) (4) 特進 27 名 (昨年 25 名)、進学選抜 115 名 (昨年 110 名) の確保。</p>	<p>(1) 重点校重視の中学校訪問を展開、春のリーフレット、秋のオープンスクールチラシは生徒全員に配布。 (2) 重点校は必ずアポ取り訪問をし、学年主任、進路主事と直接面談をして情報交換に努める。 (3) 各担当者は 2024 年度中学校別推薦志願者数の増減を踏まえた上で、目標値を立てて渉外に当たる。 (4) 担当者は、他の私学と比較して、本校の長所、短所は何かを客観的に把握し合い、広報活動を行う。 (5) 本校進学実績と現状の生徒の報告や、オープンスクールなどで本校の各科、コースの良さをアピールする。 (6) 併設校の有利な面を前面に出し、進学選抜コース及び、進学文理コースの良さをアピールする。 (7) 施設の充実と、授業環境の良さをアピールする。</p>	<p>次の(1)～(4)の視点で評価する。 (1) 推薦入学者数 【A】 370 名以上 【B】 369～360 名 【C】 349～340 名 【D】 340 名未満 (2) 入学者数 【A】 480 名以上 【B】 479～470 名 【C】 469～460 名 【D】 460 名未満 (3) 一般入試志願者数 【A】 1,500 名以上 【B】 1,499～1,400 名 【C】 1,399～1,350 名 【D】 1,350 名未満 (4) 特進エクセレント 【A】 25 名以上 【B】 24～20 名 【C】 19～15 名 【D】 15 名未満 (5) 進学選抜 【A】 110 名以上 【B】 109～90 名 【C】 89～80 名 【D】 80 名未満</p>
<p>普通科第 1 学年</p>	<p>(1) 「自立と自他～自分～自分がいて、他者がいる～」 —自分を知り、伝えることができる—という学年の支援目標と最上位目標である「すべての生徒に汗と愛の経験を」に基づいた生徒支援を行う。 (2) スタディサプリを積極的に活用し、生徒の自主学習と個別最適化を深化させていく。</p>	<p>(1) 教員は、生徒に対して常に「支援マインド」を持って接する。また、授業や様々な活動に取り組む際、生徒には常に問いかけをし、生徒自身が主体的に思考できるような声を掛けと自立と自律を促す教育活動の実践をする。諸活動を通して他者と協働できるよう支援する。 (2) 生徒によってそれぞれに課された課題が違うことを理解し、生徒らが自ら自身の課題と向き合えるよう適宜アドバイスを行い、学習支援に当たる。</p>	<p>(1) 適宜ミーティングを行い、指導目標の確認と適切な教育活動が行われているかどうかを強意相互に確認する。並行して教員間の意思疎通を図れるよう意見交換を行う。生徒の活動については、諸活動における参加状況や取り組みを見て評価する。(P D C A) (2) スタディサプリの配信回数、生徒のスタディサプリ取り組み状況を見て評価する。</p>
<p>工業科第 1 学年</p>	<p>(1) 最上位目標「すべての生徒に汗と愛の経験を」を意識した行動を促す。 (2) 学年目標を意識した行動を促す。 「自分の良いところを積極的に認められるようになる」 (3) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。 全体で教室内の環境整備・美化活動を進め、学習環境を整えることを通じて学級全体の協力体制を築く。</p>	<p>(1) 自律した行動、他者を尊重、知識・技能の習得を意識した判断、声掛けをする。 (2) 教員間のスローガンを意識していく。 (3) 資格取得への継続的指導体制をつくり、全員受験種目の合格率向上を目指す。</p>	<p>(1) (2) については生徒にアンケートを実施し評価する。 【A】 50%以上 【B】 45%以上 【C】 30%以上 【D】 10%未満 (2) 全員受験資格の合格率の向上がなされたか。(各種資格試験に合格した生徒の割合) ・危険物取扱者 丙種 【A】 合格率 80%以上 【B】 70%以上 【C】 60%以上 【D】 50%以上 ・情報技術検定 3 級 【A】 合格率 90%以上 【B】 80%以上 【C】 70%以上 【D】 60%以上 (3) 工業科 1 年担任団で振り返りをし評価する。</p>
<p>普通科第 2 学年</p>	<p>(1) 学年目標を意識した行動を促す。 「他者とのかかわりを通して『汗と愛を実践』する」 (2) 自身の進路に対する意識向上、目標設定の確立を促す。 (3) 基本的な生活習慣を確立させる。 (4) 学習習慣を確立し、真剣に取り組み、仲間と学び合う姿勢を養う。</p>	<p>(1-1) 学校生活や探求授業を通して「協働性」を実感させる活動を積極的に取り入れる。 (1-2) 修学旅行を「重要な学びと実践の一つ」と位置付け、事前学習の充実を図る。 (2) 担任、教科担任、進路指導部と連携し、継続した学習指導を展開する。またオープンキャンパスに参加させ、その振り返りと生徒間での情報共有を行う。 (3) 日常の声掛け、家庭との連携を通じて意識向上を図る。 (4) スタサプを積極的に活用しながら生徒の取り組み状況を把握し、きめ細かい指導を目指す。</p>	<p>(1) から (4) 生徒へのアンケートを適宜実施し、それぞれの項目を総合的に評価する。</p>

工業科 第2学年	<p>(1) 最上位目標「すべての生徒に汗と愛の経験を」を意識した行動を促す。</p> <p>(2) 学年目標を意識した行動を促す。「自分と他人に思いやりを持ち、自分のペースで小さな成功を積み重ねよう」</p> <p>(3) 資格取得の指導を通じ、持続的に取り組む力を養い、将来への希望を明確化する。全体で教室内の環境整備・美化活動を進め、学習環境を整えることを通じて学級全体の協力体制を築く。</p> <p>(4) 主体性を養う。</p>	<p>(1) 自律した行動、他者を尊重、知識・技能の習得を意識した判断、声掛けをする。</p> <p>(2) 教員間のスローガンを意識していく。</p> <p>(3) 資格取得への継続的指導体制をつくり、全員受験種目の合格率向上を目指す。</p> <p>(4) 生徒との対話を通じてマナー違反・校則違反等を減らしていく。</p>	<p>(1) (2)については生徒にアンケートを実施し評価する。 【A】50%以上 【B】45%以上 【C】30%以上 【D】10%未満</p> <p>(3)についてはコース毎による全員受験資格の合格率により評価する。</p> <p>①危険物取扱者 乙種第4類 (全コース) 【A】50%以上 【B】40%以上 【C】30%以上 【D】20%以上</p> <p>②計算技術検定 2級 (Dコース) 【A】40%以上 【B】30%以上 【C】20%以上 【D】10%以上</p> <p>③情報技術検定 2級 (Hコース) 【A】60%以上 【B】50%以上 【C】40%以上 【D】30%以上</p> <p>④情報活用試験 3級 (Sコース) 【A】80%以上 【B】70%以上 【C】60%以上 【D】50%以上</p> <p>⑤情報デザイン検定 初級 (Sコース) 【A】70%以上 【B】60%以上 【C】50%以上 【D】40%以上</p> <p>(4) 特別指導について 【A】3人以下 【B】5人以下 【C】10人以下 【D】10人以上</p>
普通科 第3学年	<p>(1) 進路目標実現のため、目標設定を明確にし、個に対するきめ細かい進路指導ができる体制をつくる。その結果、希望する生徒全員の進路実現につなげる。</p> <p>(2) 最上級生として社会が求める人材になる為の自覚ある行動を促す。「自律」した行動を様々な教育活動の中で促していく。</p>	<p>(1) 進路を意識した言動を心掛け、生徒の進路意識を高める。また、生徒と面談を実施し、生徒の進路目標を把握した上で適切な指導を行う。</p> <p>(2) HR、集会などを通じて継続的に助言、支援を実施する。学習、進路、生活態度の場面において生徒自身が考える機会を与え、自律した行動ができるようこれからの生き方について考えさせる。</p>	<p>(1) 進路指導部と連携を取り、進路実現ができたか、またその過程をふまえて評価する。</p> <p>(2) 日頃の様子を観察したり、年間を通じて生徒の成長度合いを見たりして、社会に有為な人材として相応しい行動ができるようになったかどうかで評価する。</p>
工業科 第3学年	<p>(1) 最上級生としての基本的な生活習慣の継続と社会が求める人材になる為の身だしなみ・最低限の言動を身に付ける。</p> <p>(2) 進路実現に向けて ・就職希望者・・・就職率100%を堅持する。 ・進学希望者・・・希望進学先(大学、専門学校)への進学に向けた自学自習の意欲向上。</p> <p>(3) 高校3年生は世間からどのように見られるべきかを考えた行動ができるようにしたい。</p>	<p>・挨拶、教室巡回、HR、学年集会等を通じて、身だしなみ・時間厳守等のモラルの意識を徹底する。</p> <p>・進路実現において個人の将来の目標を明確にさせた上で、面接及び対策指導の実施を行う。</p> <p>・進学希望者は、学年団で協力しつつ自学自習の実施を指導し、進学に必要な知識を磨く。</p> <p>・就職希望者は、社会人としての基本的な行動を具体的に生徒へ示し、実践できるように徹底指導していく。</p>	<p>次の(1)～(5)の視点で各指標を基に評価する。</p> <p>(1) 学習習慣の確立により成績向上の成果が得られたか。 追試験/追認定試験対象者 【A】5%未満 【B】10%未満 【C】15%未満 【D】15%以上</p> <p>(2) 生活習慣の確立により時間を意識した行動ができたか。(遅刻指数) 【A】1.0未満 【B】1.2未満 【C】1.4未満 【D】1.4以上</p> <p>(3) 就職率100%を実現できたか。(就職応募の状況を踏まえて、事前事後指導等で評価) 【A】就職率100% 【B】就職率95% 【C】就職率90% 【D】就職率90%未満</p> <p>(4) 大学・専門学校進学希望者の進路状況が本人目標に見合った形で実現できたか。 【A】大同大学30名以上 【B】大同大学25名以上 【C】大同大学20名以上 【D】それ以下</p> <p>(5) 全員受験資格の合格率の向上がなされたか。(各種資格試験に合格した生徒の割合:合格率) ①旋盤技能検定 (生産システムコース) 【A】100%以上 【B】95%以上 【C】90%以上 【D】85%以上 ②初級CAD検定 (電子機械コース) 【A】80%以上 【B】70%以上 【C】60%以上 【D】50%以上 ③情報活用検定2級 (電子情報コース) 【A】70%以上 【B】60%以上 【C】50%以上 【D】40%以上 ④色彩検定3級 (情報デザインコース) 【A】70%以上 【B】60%以上 【C】50%以上 【D】40%以上</p>